

第2学年 国語科学習指導案

2組 計25人 (男子 9人, 女子16人)

指導者 中村悦子

1 単元 ようすを考えて読もう (教材「お手紙」 光村2年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、場面の様子を想像して劇化したり、心に残った場面を絵や文章で書いて伝え合ったりしながら作品を読んできたこれまでの学習を生かして、場面の様子をとらえながら声に出して読んだり、感想を友達と話し合ったりすることで、読みを広げることがねらいとしている。また、教材と同じようなテーマの作品を探して読み、友達に紹介することで、読書に興味をもって読もうとする態度を身に付けることもねらっている。

教材「お手紙」は、少しわがままでさみしがりやのがまくんと心やさしいかえるくん、頼まれた手紙を懸命に運ぶかたつむりくんというそれぞれに特徴的な性格の登場人物が出てくる。そして、がまくんとかえるくんの二人の会話を中心となりテンポよく話が展開されているので、子どもたちは、物語の世界に浸り、主人公に寄り添って一緒に喜んだり、悲しんだりすることができるお話である。

この教材は、挿絵が効果的に配置されているので、その一つ一つを文章と合わせたり、比べたりしながら考えることで、場面の様子をつかみながら二人の心の触れ合いを読むことができる。また、ほとんどががまくんとかえるくんの会話で物語が進行しているので、子どもたちは、がまくんやかえるくんになりきって「親愛なる」の意味に気付いたり、二人の間の心の交流をとらえたりすることができる。したがって、場面の様子や登場人物の心の移り変わりについて想像を広げながら読んでいくことに適した作品である。さらに、読み取ったことについて思ったことや考えたことを自分の言葉で話したり、友達の話の話を聞いたりすることで、みんなで語り合うことの楽しさを感じることができる。そして、この教材を読んでとらえた友達の大切さや、やさしさをテーマにした本を探して読み、読書への興味・関心を高めることができる。と考える。

(2) 単元の目標

【◎は単元の重点目標】

- 作品のおもしろさに触れ、楽しんで想像を広げながら読もうとする。【国語への関心・意欲・態度】
- ◎ 作品を読んで感じたことや考えたことについて、楽しく話したり、聞いたりすることができる。
- 自分が一番紹介したい本を選び、感想を添えて紹介したり、読みたい本を考えながら聞いたりすることができる。【話す・聞く能力】
- 友達に伝えたいことがよく分かるような手紙を書くことができる。【書く能力】
- ◎ 挿絵と会話文とを関係付けて、場面の様子や登場人物の心の移り変わりについて想像を広げながら読むことができる。【読む能力】
- かぎの使い方を理解し、会話文と地の文を区別することができる。【言語についての知識・理解・技能】

(3) 児童の実態

本単元に関する学級の実態は以下のとおりである。

【調査人数25人 実施日9月3日、調査方法：質問紙法】

① 物語を学習するのは好きですか。それはなぜですか。

好き(22)

お話を読むことが好き。(9) 楽しい、おもしろい。(8) 劇や人形劇ができる。(3)
いろいろなことが分かるから。(2)

きらい(3)

読むことが面倒くさい。本を読むのが苦手。(3)

② 物語の学習はどんなことが楽しいですか。

みんなで劇をするのが楽しい。(12) 音読(役割読み)をするのが好き。(7)

ペープサートを使って発表する。(4) 自分の考えを書く、絵を描く、クイズを作るのが好き。(3)

③ 国語の学習で想像したことや感じたことを発表しますか。

好き(15)

発表するのが好き、楽しいから。(8) 友達の考えを聞くのが好き。(5) 自分の考えを教えたい。(2) くらい (10)

みんなの前で発表するのが恥ずかしい、緊張する。

④ 手紙をもらったことはありますか。

ある (25) ない (0)

- ・ 「誕生日おめでとう」のカードをもらってうれしかった。
- ・ おじいちゃんから「元気ですか。」の葉書がうれしかった。

書いたことがある (25) ない (0)

- ・ 年賀状、暑中見舞いなど

子どもたちは、これまでに国語の学習や読書活動を通して書いてある内容について、時間的な順序や事柄の順序をつかみ、想像を広げながら読むことの楽しさや声に出して読むことの楽しさを味わってきている。また、子どもたちは物語を学習することに意欲的であり、場面の様子を考えながら動作化したり、読み取ったことを基に音読劇や人形劇などの活動したりすることを楽しいと感じている。しかし、想像したことや自分の思いを言葉を使って表現することに苦手意識をもったり、発表することに恥ずかしさを感じたりしている子どもも少なくない。子どもたちは、手紙をもらったり、書いたりした経験をもっており、学校内でも手紙をやりとりして楽しんでいる姿もよく見かける。しかし、その内容は、状況報告がほとんどで相手の気持ちや自分の気持ちを伝える内容の手紙を書いた経験をもつ子どもは少ない。

子どもたちの話したり聞いたりする様子については、自分の考えに理由を付けて話そうとする力や、友達の話を最後まで聞こうとする力は育ってきているが、体験を交えて話すなど分かりやすく伝える工夫をする力や相手が伝えたい内容を考えながら聞こうとする力は十分身に付いているとは言えない。

3 本単元で高めたい「話すこと・聞くこと」の領域における「学び方」

○ 相手に分かるように話すこと

ア 主人公の気持ちについて想像したことを自分の体験を交えて話す。

○ 大事なことを落とさないで聞くこと

イ 相手を見て、どんなことを伝えたいのか考えながら聞く。

○ 対話すること

ウ 読んだ本の中で興味をもったことを友達と紹介し合う。

4 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、以下のような点に重点をおいて指導していきたい。

「つかむ」過程では、まず、読みへの興味・関心を高めるために、題名や挿絵を基に話の内容を想像することで、早く読んでみたいという気持ちをもつことができるようにする。次に、全文を音読した後、好きだなと思った場面について発表したり、ペープサートを操作したりして、みんなで話し合うことや音読することの楽しさを想起することで、学習の見通しをつかみ、楽しく読みを進めていくことができるようにする。

「深める」過程では、始めに、挿絵並べをして話の粗筋をつかむことで、全体を意識しながら読み取りに入っていけるようにする。一人読みをする際は、挿絵の中の登場人物の表情や会話を手がかりにすることで、場面の様子や心の変化について自分の考えをまとめることができるようにする。また、自分の体験を基に主人公の気持ちを想像し、全体で深めることで二人の心の触れ合いに気付くことができるようにする。さらに、自信をもって自分の考えを発表することができるように、想像したことを吹き出しに書いたり、友達の考えを聞くためにペアで発表し合ったりする場を設定する。

「味わう・高める」過程では、作品のよさを味わうことができるように、学習したことを振り返る時間を十分にとり、好きな場面やよかったところを音読したり、ペアでがまくんとかえるくんになって発表したりして、二人の心の通い合いや、やさしさに触れることができるようにする。また、自分も相手に喜んでもらえるような手紙を書くことで、相手を大切に思う気持ちを実感できるようにする。

「まとめる・広げる」過程では、教師が行う「友達」をテーマにしたブックトークを聞き、紹介された本やテーマに沿った本を読む時間を設定することで、目的をもって読書することができるようにする。その際、読書コーナーを作り読書環境を整えるようにする。読んだ本について簡単にメモを取ることのできる本を紹介するか選ぶことができるようにする。また、友達のブックトークを聞きながら、読みたくなった本についてもメモできるようにすることで、読書意欲を高めることができるようにする。

5 指導計画 (全14時間)

※は、重点評価項目

過程	時間	主な学習活動	教師の指導	学び方	評価項目や評価方法
つかむ	2	1 題名や挿絵から話を予想する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵や題名から話を予想したり、手紙をもらった経験を発表したりして、作品への興味が高まるようにする。【関・意・態】 ○ 挿絵を効果的に活用することで、粗筋をつかみ、感想をもつことができるようにする。【読】 ○ 感想を基に音読したり、ページサートを操作して考えたりすることで、読みの課題や学習への見通しをもつことができるようにする。【関・意・態】 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 題名や挿絵などから話を予想して、意欲的に学習に取り組もうとしているか。(発表) ○ 場面や登場人物、粗筋についてとらえているか。(観察, 発表, ノート) ※ 読みの課題を基に学習計画を立てることができたか。(ノート, ワークシート)
		2 全文を読み、粗筋をつかむ。			
深める	5	4 場面ごとに登場人物の様子を読み取る。 ○ 悲しい気分になっている二人 ○ 手紙を書いたかえるくん ○ ふてくされているがまくんと元気づけようとするかえるくん ○ 手紙を書いたことを伝えるかえるくんとうれしくなるがまくん ○ 手紙を待つ二人	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の表情や行動が表れている言葉に着目してワークシートに考えをまとめたり、音読や動作化したりすることで、場面の様子を想像することができるようにする。【読】 ○ 自信をもって自分の考えを全体場で発表することができるように、一人読みの時間を十分にとったり、友達の考えを聞くためにペアで発表し合ったりする場を設定する。【話・聞】 	ア, イ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 想像したことを自分の言葉でワークシートにまとめることができたか。(ワークシート) ※ 挿絵や会話文を基に登場人物の様子を考えながら読み取ることができたか。(音読, 動作化, ワークシート) ※ 自分や友達の考えのよさに気付いているか。(評価カード)
		5 心に残った場面についてみんなで考える。			
味高める	2 (本時1/2)	6 自分の伝えたいことを手紙に書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心に残った場面や主人公の様子について登場人物になりきって考えることで、その理由を自分の体験を交えて話すことができるようにする。【話・聞】 ○ 学習を振り返り友達の大切さや手紙のよさを知ることで、友達に喜んでもらえる手紙を書くことができるようにする。【書】 	ア, イ	<ul style="list-style-type: none"> ※ 主人公の気持ちを想像して、自分の思いを伝えるために体験を交えて発表することができたか。(発表, 観察) ○ 自分の一番伝えたいことがよく分かるように工夫した手紙が書けているか。(手紙)
		7 かえるくんシリーズや友達をテーマにした本を探して読む。			
まとめる	5	8 友達に紹介したい本を選んでブックトークの準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんなテーマで本を読むかを話し合うことで、目的のある読書ができるようにする。【読】 ○ 発表の仕方を工夫することで本のおもしろいところを友達に分かりやすく伝えることができるようにする。【話・聞】 ○ 発表を聞きながら、簡単なメモをとることで、読書への興味・関心をもつことができるようにする。【関・意・態】 	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み取ったことを生かして、自分の読書のテーマを決め、進んで本を読んでいるか。(ワークシート, メモ) ※ 友達に伝えたい本について原稿の準備や紹介の仕方を工夫して楽しく活動しているか。(観察) ○ 読みたい本を見付けようとしているか。(発表, メモ)
		9 ブックトークをする。			

【関・意・態】…【国語への関心・意欲・態度】

【話・聞】…【話す・聞く能力】

【書】…【書く能力】

【読】…【読む能力】

6 本時 (8/14)

- (1) 目標 心に残った場面や主人公の様子について友達と対話しながら考えたり、理由を話したりすることができる。
- (2) 本時で高めたい「学び方」 作品について想像したことや考えたことを自分の体験を交えて分かりやすく話したり、友達の伝えたいことは何か考えながら聞いたりする。

(3) 展開 教師の言葉掛け 予想される子どもの反応

課題(例)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つかむ(5)	<p>1 前時の学習を想起する。 かえるくんとかまくんがどんなことを思っているか考えたよ。 かえるくんとかまくんになって音読したね。</p> <p>2 学習課題を確認する。 自分の好きな場面のことを理由を付けて友達に話をしよう。</p> <p>友達と二人で、かえるくんとかまくんになって心に残った好きな場面を紹介しよう。</p> <p>3 発表の仕方について確認する。 発表する友達を見て聞きましょう。</p> <p>4 挿絵を見ながら、かまくんとかえるくんの言動を振り返る。 みんなは、どんな話を待っている二人は、とてもあがきあきしたよ。」とか「ばからしいこと言うなよ」とか少しわがままだなと思っただよ。 かえるくんの手紙を待っている二人は、とてもあがきあきしたよ。</p> <p>5 好きな場面についてお互いに思ったことや考えたことを発表する。 おじいちゃんから手紙をもらってとてもうれしかったよ。がまくんもすごく待ち遠しかっただろうな。 二人は、とてもいい友達なんだなと思えました。わたしも友達を大切にしたいと思えました。</p> <p>6 学習を振り返って、自己評価、相互評価をする。 「お手紙」読んでいろいろなることを想像して、発表することができたね。今日の活動を振り返って「よかったよカード」を書きましょう。 かえるくんやがまくんになって発表したのが楽しかった。</p> <p>7 次時の学習を確認する。 次は、自分の伝えたいことを手紙に書きましよう。</p>	<p>○ 前時までの学習を想起し、学習課題を確認することとで、本時の学習活動への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>○ 挿絵を掲示することで、登場人物の表情を見ながら話の筋を確認し、これまでに学習したこととを思い出すことができるようにする。</p> <p>○ 手紙をもらった喜びや友達の大切さなど自分の体験を思い出しながら考えたり、二人の気持ちを確認し、具体的な想像ができるようにする。</p> <p>○ 発表に工夫が見られる子どもには、その都度称賛を与えることと、より分かりやすい発表にできるようにすることとを伝える。</p> <p>○ 発表のルールについて確認することと、発表するだけでなく、友達の話を最後まできちんと聞き、考えられることができるようにする。</p> <p>○ 登場人物になって二人の心の交流について想像することができるようにする。</p> <p>心に残った場面や主人公の様子について、友達と対話をしながら考えたり、理由を話すことができるようにする。</p> <p>◆ (ワークシート、発表) 「話す・聞く能力」自分の体験を基に想像を広げることができている子どもも</p> <p>◆ 具体的に発表内容や発表の仕方のおよさを称賛することと、他の子どもたちにもそのよさを広げ、更に読みの意欲が高まるようにする。</p> <p>◆ 自分の思いをうまく発表できるようにする。子どもも賞めたり、励ましたりして発表に自信もてるようにする。</p> <p>◆ 自分の発表することを気に取られて友達の発表をよく聞かない子どもを見つけて、友達のいいところを見付けて、「よかったよ」カードにも書いてもらうように助言する。</p> <p>○ 友達の大切さや手紙のよさについてまとめるとき、手紙を書くことへの意欲がもてるようにする。</p>